

【概要】

人と自然の調和した自然環境の保全に資することを目的とし、野生動植物の保護繁殖に関する各事業に取り組んだ。実施した主な事業は次のとおりである。なお、平成 24 年 4 月 1 日より公益法人としての認可を受け、「公益財団法人ホシザキグリーン財団」となった。

I. 事業部門

1. 野生生物研究所事業 (定款第 4 条 第 1 項 第 1、3、5 号該当事業)

- (1) 調査研究・情報収集発信事業を中心に、宍道湖グリーンパークやふるさと尺の内公園の環境整備のほか、各種の普及啓発活動も含めた財団の幅広い事業を支えるべく運営を行った。
- (2) 調査研究や普及啓発事業に必要な資料(文献・標本等)の収集・保存、それらを活用するための整理など活動基盤を維持する拠点として運営を行った。
- (3) 標本室と図書室の温度や湿度などを管理した。
- (4) グリーンパーク来園者の救護室の必要性から、研究所内の応接室にそれに応じた備品類を設置した。
- (5) 野生生物研究所の実習室を、団体対応や観察会などの室内プログラムの実施場所の一つとして運用した(年間 47 件、のべ 1,356 人)。

2. 宍道湖グリーンパーク事業 (定款第 4 条 第 1 項 第 2、3 号該当事業)

- (1) 宍道湖グリーンパークおよびビオトープ池の適切な管理を行った。
- (2) 野鳥観察舎や園内に鳥類や昆虫類、植物などの解説を掲示し、フィールド情報を時節にあわせて更新するなどの掲示物の管理を行った。また展示スペースを確保するために、観察舎の一部壁面を改修した。
- (3) 野鳥観察舎において、双眼鏡の貸し出しやキッズコーナー設置などのサービスを継続した。
- (4) 来園者に楽しんでもらう見どころとして「ペンギンミュージアム(約 2,000 点のペンギン・グッズを展示)」を開設した(3/10 オープン)。
- (5) 園内の維持管理(除草作業など)は昆虫や野鳥など野生動植物の生息に配慮して実施した。
- (6) 園内の植栽に樹名板を追加した。
- (7) カワセミの人工営巣壁について、繁殖継続のための巣穴の埋め戻し作業などを行った。
- (8) ビオトープ池では、渡り鳥の飛来などに配慮しながら水位管理を実施するとともに、希少な植物であるタコノアシの生息環境を維持管理した。
- (9) ビオトープ池の機能向上のための改善計画について調査設計を完了した。
- (10) 白鳥の採食場として、グリーンパーク周辺農地約 10ha に地権者の協力を得て水を張り、飛来環境の整備を実施した。
- (11) 野鳥観察舎等で年間 32,561 人の利用者があった(開園より 299,450 人)。

3. ふるさと尺の内公園事業 (定款第 4 条 第 1 項 第 2、3 号該当事業)

- (1) 尺の内公園の適切な管理を行った。
- (2) 園内の維持管理(除草作業など)は昆虫や野鳥など野生動植物の生息に配慮して実施し、園内の一画で整備を進めている「どんぐりの森」においてはクヌギなどの移植と間伐の経過観察をした。
- (3) 人と自然に配慮した公園として再整備する第一段階として、駐車場の整備を実施した。

- (4) 試験的に設置したカブトムシやクワガタ類の繁殖場所の経過観察をするとともに、繁殖場所となるほだ木を追加した。
- (5) 園内の人工池にオニバスが定着するよう試験やモニタリング等を実施しながら維持管理を行った。
- (6) 園内で見られる生きものに関する解説板を1基増設した。
- (7) 公園に隣接する丘陵地に植栽したクヌギや草地環境を維持するための草刈りを行った。

4. 調査研究事業（定款第4条 第1項 第1、2号該当事業）

- (1) 職員による自主研究を次の課題で取り組んだ。

〈鳥類研究〉

- ① 鳥類の環境利用特性の研究
- ② マガン・ヒシクイ・コハクチョウの日周行動特性の研究
- ③ 特定鳥類の生息状況調査（カンムリウミスズメ、ウチヤマセンニュウ、シロチドリ等）
- ④ 鳥類生息情報の集積
- ⑤ 尺の内公園の鳥類調査
- ⑥ グリーンパークの人工営巣壁におけるカワセミの繁殖モニタリング
- ⑦ グリーンパーク周辺の鳥類定量カウント調査
- ⑧ ビオトープ池の鳥類調査
- ⑨ 白鳥の採食場の利用状況調査
- ⑩ 中海のカワウ（コロニー・ねぐら）個体数調査

〈昆虫類研究〉

- ① ネクイハムシ亜科の進化生物学的研究
- ② 日本産水生甲虫類の分類学的研究
- ③ 島根県の止水および流水域に生息する水生昆虫類の保全生物学的研究
- ④ 山陰の海岸に生息する昆虫類に関する研究
- ⑤ 島根県産昆虫目録作成のための基礎研究
- ⑥ 尺の内公園の昆虫・クモ類調査
- ⑦ グリーンパークの昆虫・クモ類調査

〈植物研究〉

- ① 島根県内における植物調査
- ② 島根県産植物の染色体観察
- ③ シソ科植物の細胞分類学的研究
- ④ 尺の内公園の植物調査
- ⑤ 人工池におけるオニバス定着試験

〈その他〉

- ① 宍道湖・中海における生物多様性に関する研究

- (2) 委託研究として「宍道湖西岸のトンボ相調査」、「隠岐島前の陸上節足動物相調査」など9課題を委託して実施した。
- (3) 環境修復事業として、宍道湖の十四間川河口における覆砂や魚類調査、雲南市の沢池における水生生物調査などを行った。
- (4) 6名の客員研究員を委嘱して研究体制を強化した。
- (5) 財団研究報告書や他団体発行誌に41題の研究論文を発表した。
- (6) 学会や研修会等で5題の発表を行った。

5. 普及啓発事業（定款第4条 第1項 第4号該当事業）

- (1) 宍道湖グリーンパークで以下の企画を実施した。
 - ・ 定例自然観察会（11回、中止1回）
 - ・ わくわくグリーンパークひろば（10回）
 - ・ 大型連休（ゴールデンウィーク4/28-30、5/3-6）のイベントとして日替わり工作（7日間）
 - ・ 捕虫網の貸し出し（5/20-10/31）
 - ・ 園内セルフガイド（5/26-10/31）
 - ・ グリーンパークでおんがくかい（7/14）
 - ・ マガンとコハクチョウの初渡来日予想（9/1-17、9/19-10/8）
 - ・ 鳥のオリジナルスタンプ40種の展示とカードのプレゼント企画（12/22～2/4）
 - ・ お正月の先着プレゼント企画（1/1-4）
- (2) ふるさと尺の内公園で定例自然観察会を実施した（5回、雨天中止1回）。
- (3) グリーンパークの野鳥観察舎で企画展「しまねのアリジゴク～砂の中の待ちぶせハンターたち～」を開催した（7/21-9/3）。
 - ・ ゴビウスの特別展との連携企画としてスタンプラリーを実施し、抽選プレゼント（島根のアリジゴク図鑑の下敷き）を実施した。
- (4) 野鳥観察舎において時節（古事記、クリスマス、お正月、世界湿地の日）にあわせたまとまった展示更新（コーナー展示）を4回実施した。
- (5) ゴビウスのガラスケース内（野鳥と昆虫に関する展示）を季節の変化にあわせて展示更新をした。
- (6) 研究所の実習室において宍道湖学習講座「出雲神話の生きものたち」を開催した（5/27）。
- (7) パークボランティア（17名）を登録し、観察会の企画実施のほか、イベントや園内の作業補助などに関わった。
- (8) パークボランティア研修会を実施した（7/29、8/6、1/14、1/28）。
- (9) グリーンパーク利用者（主に団体）の申込みに応じて観察プログラム等の対応を行った（年間65回、のべ2,211人）。
- (10) 学校や地方公共団体等が主催する観察会や研修会等に講師を派遣した（年間11回）。

6. 情報収集発信事業（定款第4条 第1項 第1、4、5号該当事業）

- (1) 文献、標本、写真、映像などの資料収集・整理につとめた。
 - ・ 文献は、購入611冊、寄贈・交換2,294冊、計2,905冊を取得した。
- (2) 「ホシザキグリーン財団研究報告 第16号」を発行した（論文24題、短報8題、資料2題、事例報告1題；336頁）。
- (3) 「ホシザキグリーン財団研究報告 特別号」を発行した。
 - ・ 第6号 山陰地方のキジラミ図鑑（97頁）
 - ・ 第7号 鳥取県大山の昆虫調査（論文5題、短報3題；104頁）
 - ・ 第8号 隠岐諸島の節足動物調査（論文3題、短報5題、資料2題；110頁）
- (4) ニュースレター「HOWP」を発行（26-29号）し、自然情報等の発信に努めた。
- (5) 宍道湖グリーンパーク自然観察リーフレットを発行した（草むらの昆虫編：バッタやカマキリを観察してみよう／秋～冬編②：宍道湖に飛来するマガンとコハクチョウの2種類）。
- (6) ホームページで自然情報やイベントなどの情報発信を行った。

7. 地方公共団体からの受託事業（定款第4条 第1項 1、3、4号該当事業）

- (1) 島根県立宍道湖自然館管理運営業務（指定管理、主管課：島根県水産課）
宍道湖自然館ゴビウスの管理運営を行い、普及啓発や調査研究などの各種事業を実施した。
詳細は別資料（宍道湖自然館館報 No. 12）。
- (2) 宍道湖公園利便施設管理業務（指定管理：出雲市）
宍道湖公園利便施設多目的棟の管理業務を行った。
- (3) 隠岐ジオパーク生物多様性保全推進事業（委託：島根県自然環境課）
隠岐に生息するカムリウミスズメやウチヤマセンニュウの生息状況調査を実施した。
- (4) しまねレッドデータブック改訂現地調査業務（受託先：島根県自然環境課）
改訂検討のため、甲殻類、淡水魚類、サンショウウオなどの現地調査を行った。
- (5) 学んで繋げる環境学習推進事業（委託：島根県環境政策課）
宍道湖・中海のラムサール条約登録湿地としての普及事業としてゴビウス KODOMO ラムサール探偵団
を実施した（計4回）。
- (6) 出雲市自然環境調査研究業務（委託：出雲市）
出雲市内の鳥類（オシドリ）や水生生物（レッドデータ指定種や外来種）などの生息調査を行った
ほか、職場体験実習の受け入れや観察会を実施し、小冊子「出雲市のため池にすむ生きものたち2」
（31頁）を発行した。
- (7) 宍道湖・中海の賢明な利用推進事業（委託：島根県環境政策課）
ラムサール条約リレーシンポジウム「魚と人をつなぎなおす」および「宍道湖でハゼ釣り&ゴミひろ
い」を開催し、宍道湖・中海のラムサール条約登録湿地としての普及事業を行った。
- (8) 斐伊川外水辺環境調査業務（委託：中国地方整備局出雲河川事務所）
斐伊川水系の住民参加による水生生物や水質の調査を行った。
- (9) 鳥類生息調査業務（委託：島根県森林整備課）
宍道湖・中海など主要な渡来地でカモ科鳥類の個体数調査を実施した（10-3月に毎月1回）。
- (10) グリーンワーカー事業（国指定宍道湖鳥獣保護区カワウ生息状況調査）業務（委託：中国四国地方環境事務所）
宍道湖周辺のカワウの生息状況調査を行った。

II. 管理部門

1. 監査

平成24年6月7日に、高橋良昌監事、廣瀬方利監事により平成23年度一般会計及び業務の監査を受け、会計および業務とも適正と認められた。

2. 理事会

平成24年6月25日 第1回理事会

- ・議長・議事録署名人を承認
- ・平成23年度の事業報告を承認
- ・平成23年度の決算報告を承認
- ・評議員会開催日時の承認
- ・環境修復事業の報告

平成24年8月31日 第2回理事会

- ・グリーンパーク集客及び環境保全等普及啓発のためのペンギンミュージアム整備に係る建物修繕及び施設付属設備等に係る取得支出の増額を承認
- ・グリーンパーク及び尺の内公園の整備に伴う構築物等取得支出の増額を承認
- ・定款の一部変更を承認

平成25年2月19日 第3回理事会

- ・平成24年度収支予算の変更を承認
- ・平成25年度事業計画を承認
- ・平成25年度収支予算を承認
- ・評議員会開催及び開催日時を承認

平成25年2月27日 第4回理事会

- ・議長、議事録署名人を承認
- ・平成24年度収支予算の変更を承認
- ・平成25年度事業計画を承認
- ・平成25年度収支予算を承認

平成25年3月22日 第5回理事会

- ・ホシザキ電機(株)第67期株主総会議案を承認

3. 評議員会

平成24年6月26日 第1回評議員会

- ・議長・議事録署名人を承認
- ・平成23年度の事業報告を承認
- ・平成23年度の決算報告を承認
- ・評議員の補欠選任を承認
- ・環境修復事業の報告

平成24年8月31日 第2回評議員会

- ・グリーンパーク集客及び環境保全等普及啓発のためのペンギンミュージアム整備に係る建物修繕及び施設付属設備等に係る取得支出の増額を承認
- ・グリーンパーク及び尺の内公園の整備に伴う構築物等取得支出の増額を承認
- ・定款の一部変更を承認

平成25年2月27日 第3回評議員会

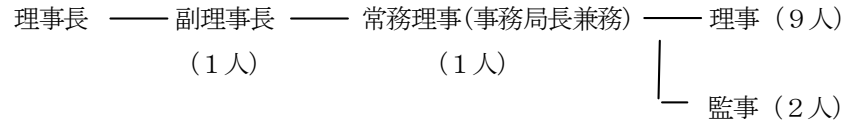
- ・議長、議事録署名人を承認
- ・平成24年度収支予算の変更を承認
- ・平成25年度事業計画を承認
- ・平成25年度収支予算を承認

【組織】

理事長以下理事 12 名、監事 2 名、評議員 9 名、職員 33 名で管理運営にあたった。

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

(1) 役員



(2) 評議員

評議員 (9 人)

(3) 職員

